慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	山田伊三郎訳 国民経済原論 第一冊
Sub Title	
Author	高城, 仙次郎
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.3 (1914. 4) ,p.379(125)- 380(126)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140400-0125

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

兩者の交渉、貨物船對客船の比較、貨客運送の現況、企業としての海運等に就きては隨處に著者の意見を窺知するを得るのみにして、精細なる研究は見ることを得ず。されど此種の研究は下卷に載せらるゝ筈なる可し。是れ吾人が其下卷が一日も早く出版せらるゝに至るを切望する所以也。

經濟的立脚地より海運を論ずるに當りて、海運の基礎たる船舶を技術的に説明するは勿論至當なることなる可し。されど、本書の如く帆の形狀、推進機、汽機、汽罐、タービン機等に關して稍々精細なる技術的説明を與ふるの必要に就きては聊か疑ひなき能はざるなり。殊に汽罐室以外に於ける船艙、客室等の貨客に對する設備に關する精略なる敍説を省略せるに於てをや。又、推進機、汽機、タービン機、汽罐等に關する本書中の説明は當業者に取りては餘りに簡易なると同時に門外漢に對しては餘りに專門的に

亙れるに非ずや。門外漢に對しては此等の説明に圖解を加ふるを得策とす可きに、本書に此事なきは惜む可し。タービン機説明の一節には一圖解を挿みたるも、此簡單なる圖解に依りて素人が其構造と運用とを會得するを得るや否やは疑問なりと謂ふ可し。評者は曾てタービン機を實見したる經驗を有するを以て、著者の説明が略ぼ可なるを知れり。されど、此經驗を有せざる者に對して船舶諸部の技術的説明を與ふる以上は一層詳細なる解説を與ふるを得策とせずや。

我國に於て出版せらるゝ書藉、雜誌等に誤植の多きは吾人の甚だ遺憾とせる所にして、評者自身も之に就きて幾多苦き經驗を有せるが、本書に比較的此缺點少なきは慶賀す可し。(二〇三頁一行鐵は木材に非ずや。又、二二六頁六行に一八九三年とあるは一七九三年の誤植なる可し。横文字の誤植は不幸にして少數なりと云ふを得ず。)

日清戰爭以來長足の進歩を遂げたる我海運業は巴奈馬運河の開通と共に益々多事ならんとし、殊に該航路の補助が一大問題となれる今日に於て假令完璧ならずとするも本書の如き頗る健實なる海運論の上梓せられたるは評者の讀者と共に欣賀せざるを得ざる所にして、吾人は斯學に關する一好參考書として之を江湖に推擧するを辭せざるなり。本書に對して評者が呈したる蕪言の如きは望蜀の念より來れるものなるのみ。

（高城）

山田伊三郎譯補『國民經濟學原論』第一冊

大正三年二月東京富山房發行
菊判四六九頁定價壹圓六拾錢

本書は彼の有名なる獨逸經濟學者シュモラー氏の『國民經濟學原論』Grundriss der Allgemeinen Volkswirtschaftslehre）の邦譯にして、東京高等商業學校教授文學士山田伊三郎氏の筆に成るものなり。原著は經濟學の立脚地より人間の社會的生活の全部を説明せんと試みたるものにして、其論據たる可き經濟學の原理其物に對する著者の研究には特筆するに足る可きものなしと雖も、在來の抽象的又は局部的講究の範圍を脱して社會全般に於ける人間の經濟的活動を討究するに努めたる點に於て、經濟學上一新局面を開拓せる一大著述なりと謂ふを得可し。原著は最初千九百一年に上梓せられ其後數版を重ねたるが、山田氏の用ひたる原本は初版なり。

原著は上下二卷大版千三百三十五頁を數ふる頗る浩瀚なる書物にして、譯者は之を九冊に分割して既に其第一冊を上梓せしが、他の八冊は本年並に明年中に漸次出版するの豫定なりと。此譯書第一冊の收むる所は原著の總論のみなり。本書は原文を逐句的に譯述せる頗る忠實なる飜譯なり。されど、譯述餘りに逐句的にして直譯に偏せる結果、文意明確を缺ける所少からざるは惜む可し。一二の例を擧ぐれば、一一二頁に下の一節あり。『然れどもその（國民經濟の意義）確乎たる輪廓を定められ、且つ大に判然したるは、實に社會生活の高尚なる發達に伴ひ、一面社會生活の個々方面と特殊機關と獨立し、他面社會現象に對する哲學的觀察と科學的記述と獨立したるに俟つ、』此一節の意味明瞭を缺くのみならず、譯者は原文の意を稍誤解せられたるものゝ如し。次に三八六頁に曰く、『凡て觀察は、混沌たる現象界より、個々の過程を抽象し、孤立せしめて、これを觀察す、觀察は常に抽象を基礎とし、一部分を抽象す、』云々。

此外重商主義の文學（merkantilistischen Schriften）社會主義の文學（socialistische Litteratur）經濟學的文學、貨幣交通等の如き初學者をして誤解せしめ易き字句を用ゆること少からず。

然りと雖も、全冊を通じて原著の眞意を傳へんとせる譯者の努力は歴然として蔽ふ可からず。譯者は帝大文科の出身にして經濟學專攻の學者に非ざるにも拘はらず、斯學の大著にして且つ反譯の容易ならざるを以て有名なるシュ氏『原論』の邦譯を大成せられたるは我學界の爲めに欣賀す可きことにして、吾人は譯者の精力に敬服するものなると同時に其成功を祝し、譯書全部の出版が豫定の如く何等の蹉跌なくして遂行せらるゝに至らんことを祈る。（高城）

三田學會雜誌　第八卷第四號

論說

獨逸消費組合の近況に就て

高野岩三郎

千九百二年は實に獨逸消費組合の歴史上に一大時期を劃するものと謂ふべく又余輩消費組合研究者に取つて少なからざる感興を喚起するものなり乞ふ先づ數字を以て其趣を語らしめよ。

元來獨逸の消費組合は所謂產業組合の一種として發達し來れるものなり從て獨逸產業組合聯合會 Der allgemine Verband der auf Selbsthülfe beruhenden deutschen Erwerbs und Wirtschaftsgenossenschaften の傘下に集り信用組合其他の產業組合と歩調を一にして進めり今 Schmollers Jahrbuch 昨一九一三年分に掲げたる W. Tils の論文に依り進